

膵炎に続発したと思われる膵偽嚢胞に経胃外瘻ドレナージが有効であった犬の1例

杉田恵子^{1), 2)†} 杉田喜與春¹⁾ 三品美夏²⁾ 青木 大²⁾
茅沼秀樹³⁾ 渡邊俊文^{2), 3)}

- 1) 愛知県 開業 (ハート動物病院: 〒445-0062 西尾市丁田町空左51-3)
- 2) 麻布大学附属動物病院 (〒229-8501 相模原市淵野辺1-17-71)
- 3) 麻布大学獣医学部 (〒229-8501 相模原市淵野辺1-17-71)

(2008年2月4日受付・2009年1月5日受理)

要 約

5歳齢、避妊済み雑種犬が急性膵炎の発症後約4週を経過してふたたび嘔吐を主訴とし来院した。超音波検査で、嚢胞内に血流のない組織を含んだ大きなエコーフリー像が胃に隣接してみられた。内視鏡検査で、胃幽門洞大彎側で胃粘膜が球状に胃内に隆起し、幽門洞を狭小化しているのが確認された。CT検査では膵左葉から胃背側壁に達する均質な低吸収域が確認された。開腹手術を実施したところ嚢胞が確認されたため、経胃的外瘻ドレナージ術を施した。術後の経過は良好で、ドレナージチューブを抜去した後も再発はみられなかった。

——キーワード: 犬, 膵偽嚢胞, 経胃外瘻ドレナージ術.

----- 日獣会誌 62, 559～562 (2009)

† 連絡責任者: 杉田恵子 (ハート動物病院)

〒445-0062 西尾市丁田町空左51-3 ☎0563-57-4111 FAX0563-57-4112 E-mail: Heart-vhp@katch.ne.jp